

会長退任にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
前会長 大場 昭 義 CMA



2013年8月以来、2期4年にわたり会長を務めさせていただきました。この間、証券アナリスト諸兄・諸姉の皆さんに継続的に研鑽の機会を提供するとともに、証券アナリストの社会的認知度の向上を目指し社外取締役などへの活躍の場の拡大に努めるなど、私なりに全力で走り抜けた4年間でした。この間、会員の皆さん、協会事務局の役職員のご協力をいただき、証券アナリストの活動について多くの関係者に多少なりとも理解を深めていただけたのではないかと思います。関係各位に対し心よりお礼申し上げます。

振り返れば、毎年秋に開催しておりますアナリスト大会では、13年に「21世紀のフロントランナー日本！—企業内部から芽生える変革」を主要テーマとして取り上げ、日本企業の内部からの改革について未来志向の議論を展開し、16年の「AI・IoT革命に挑戦する企業とアナリスト」では急速に普及しつつあるAIやIoTを企業がどのように活用し、社会構造の変革にどのように対応するか、これまでにない規模の会員の皆さまの参加を得て活発な議論を展開することができました。多くの会員の皆さんからご評価いただきましたことに感謝する次第であります。

また、毎年春に開催しております国際セミナーでは、金融界で注目されている「資産運用」をテーマとして取り上げ「資産運用ビジネスの新しい動きとそれに向けた戦略」と題しグローバルベースでの議論を展開しました。金融庁長官に「日本の資産運用業界への期待」と題してご講演いただくとともに、国内外で活躍中のキーパーソンにもご登壇いただく機会を得て、参加された会員の皆さんに多少なりとも貢献できたのではないかと思います。

今後を展望しても、金融・資本市場を支えるのは卓越した専門性と高い職業倫理を有する証券アナリストであることは、何ら変わりません。とりわけ近年では、責任ある機関投資家の行動原則であるスチュワードシップ・コードと、持続的な企業価値の向上を目指すコーポレートガバナンス・コードが制定され、企業と投資家の建設的な対話が注目を集めています。企業価値向上に向けた対話の場においても、深く掘り下げられた議論を誘導できる主役は卓越した専門性と健全な危機意識を有する証券アナリストです。企業と投資家の対話の時代を迎え、証券アナリストの役割はますます高まっていると思います。

こうした問題意識から、この6月に協会では「企業・投資家・証券アナリスト 価値向上のための対話」を出版しました。新たな時代のアナリスト像を求めて、企業価値を長期的な視点で捉えることの重要性を論点整理しております。本書が証券アナリストの皆さんにとって対話を進めるにあたって一助となることを願ってやみません。

最後に、アナリストの皆さんの活躍と協会のますますの発展を祈念して退任の挨拶とします。

(大場氏は、2013年8月から17年8月まで当協会会長を務められました。また、本年6月に日本投資顧問業協会会長に就任されました。)